

日本災害医学会 学会主導研究

研究実施状況報告書

・研究代表者氏名：伊藤 結加里

・所属機関・職名・職種：筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学

研究群 医学学位プログラム博士課程2年

・研究課題名：災害支援者（救援者）支援プログラム作成のための基礎調査

・採択年度：2023年度

・研究期間：(2)年計画の(1)年目

・来年度研究助成申請を： 行う（どちらかを削除）

・来年度研究助成申請を行う場合には、以下に支出予定を記載してください。
(今年度未使用分があった場合には、表には含まず、表の下の項目にて記載してください。)

| | 令和6年 | 令和7年 |
|----------|---------|---------|
| 施設備品費（※） | 円 | 円 |
| 消耗品費 | 50000円 | 50000円 |
| 旅費 | 50000円 | 50000円 |
| 人件費 | 50000円 | 50000円 |
| その他 | 円 | 円 |
| 合計 | 150000円 | 150000円 |

※10万円以上かつ耐用年数1年以上のもの

※今年度未使用分子算があった場合には、以下に予定を記入してください。
例) 旅費：10,000円、人件費：20,000円

・ 円

• 合計： 円

・研究実施状況の概要(800字以内で記載してください)

過去の自然災害における支援者(救援者)のメンタルヘルスに関する文献レビュー

二

自然災害における支援者のメンタルヘルス維持の指針に関する知見を要約すべく、文献のスコーピングレビューを実施した。研究疑問は、「災害支援者を対象として、自然災害直後～中長期の精神医学的影響で分かっていることは何か」と設定した。国内外の学術雑誌に掲載された学術論文を対象とし、支援者のメンタルヘルスの実態を調査した研究を PubMed を用いて 2018 年から 2023 年の 5 年間で検索した。キーワードは「earthquake」OR 「typhoon」OR 「flood」OR 「hurricane」OR 「tsunami」AND 「mental health」OR 「psychiatry」OR 「post-traumatic stress disorder」OR 「depression」OR 「psychological」OR 「stress」OR 「mental disorder」AND 「worker OR employees OR employer OR emergency responder OR firefighter OR police OR government employees OR health personnel」とした。全 239 件の論文が検索され、最終的に選択基準をみたしたのは 15 論文だった。災害種別では地震が最多で、職種別では医療従事者と救援者、アウトカムは PTSD の論文が多かった。PTSD 有病率は、縦断研究では経時的に低下していた。職種別では、救急救命士・救助隊員の有病率が、ほかの職

種と比べて高い傾向にあったが、職種横断的な研究は不足していた。複数研究で言及されている個人的属性や業務特性のうち、自らも被災者、不安や共感の高い性格、長期の過大な業務負担は、PTSD の悪化要因として結論が一致していた。

(792 字)

- ・現在までの進捗状況(下記ドロップダウンリストより選択してください)

進捗状況 (遅れている)

- ・現在までの進捗状況で「やや遅れている」「遅れている」を選択した場合にはその理由を 200 字以内で記載してください

理由：令和 5 年度に計画通りスコーピングレビューを行ったが、令和 6 年 3 月の学会主導研究中間報告会で、①災害の定義の明確化、②検索期間の延長（東日本大震災を含む）、③複数データベースの採用が望ましい旨を指摘された。指摘事項を踏まえ、改めてスコーピングレビューをやり直す必要があるため、当初の研究期間であった 2 年を 3 年に延長することを希望する。(168 字)

- ・今後の研究の推進方策(400 字以内で記載してください)

1. 令和 6 年度（2 年目） 文献レビューの継続

対象を「日本で起きた災害」に限定し、検索期間を阪神淡路大震災を含む 1997 年から 2024 年までとし、PubMed、CiNii、Web of Science、Google Scholar、PsycInfo を用いて、改めてスコーピングレビューを行う。

2. 令和 7 年度（3 年目） 日本災害医学会学会員に対する災害支援に関連する

メンタルヘルスの現況調査

上記の文献レビューに基づき学会員に対して現況調査を行う。調査では、過去の災害支援時に受けた影響を、Kessler 抑うつ・不安尺度 (K6)、出来事インパクト尺度 (IES-R) などの各種メンタルヘルス尺度を用いて把握する。文献レビューと現況調査の結果を総合し、支援者のメンタルヘルスを保持するための具体的方策の示唆を得る。(352 字)

・研究発表(今まで全ての本研究に関する業績を論文と学会発表に分けて記載してください)

・日本災害医学会学術集会での研究発表の有無

発表状況 **あり**)

「あり」を選択された場合は発表年や演題名等を記載してください。

第 29 回日本災害医学会学術集会（京都、2024. 2.22-24）

シンポジウム「学会主導研究中間報告会（学会主導研究委員会）」

演題名：

自然災害における支援者（救援者）のメンタルヘルスに関するスコーピングレビ

ュー

- ・「なし」を選択された場合、発表していない理由を記載してください。
- ・「未定」を選択された場合、翌年度の学術集会で発表希望はありますか？
※ご意向に沿えない場合もございます。

発表状況（この中から選択）